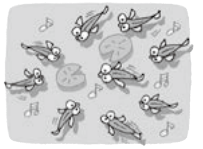


教育だより

おにいさん・おねえさんが

入学を待っています



4月も近づき新しく小学校に入学される子どもたち・保護者のみなさんは、期待で胸を膨らませていることでしょう。しかし同時に、新しい環境で始まる小学校生活に少し不安も感じているのではないのでしょうか。

国東市では、来年度小学校に入学する新1年生は、174人(2月8日現在)です。

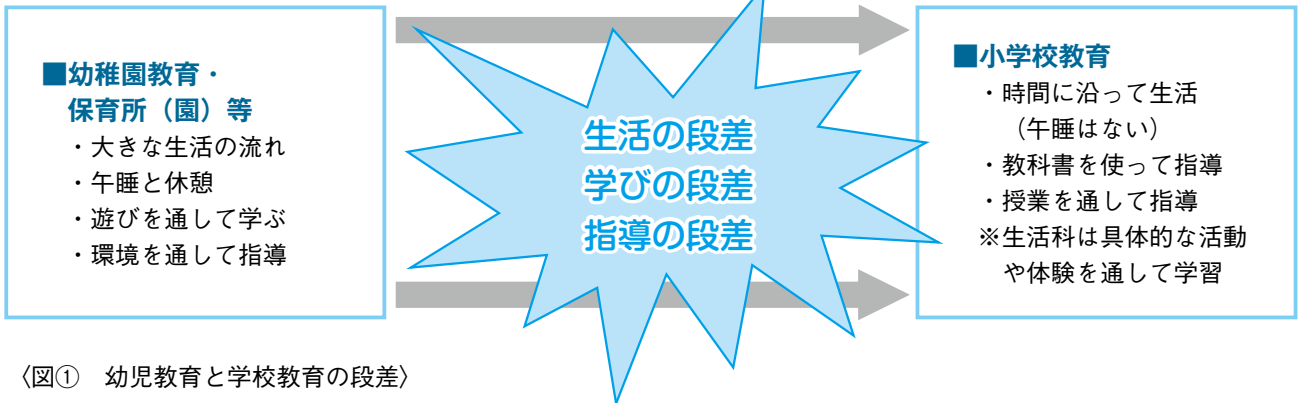
国東市教育委員会では、一人ひとり全ての子どもが1日も早く学校生活に慣れ、喜びと楽しさにあふれた学校生活になるようにさまざまな取り組みを行っています。

今回は、《子どもを送り出す幼稚園・保育所(園)等》と《子どもを受け入れる小学校》とが協働して行っている国東市教育の里づくり自慢の取り組みを紹介します。

図①のように、幼児教育と学校教育では、段差(違い)があります。その段差をいかに低く、よりなめらかな傾斜にしておくか2年前から研究を進めてきました。研究の成果を「教職員間での連携」「幼保小での交流活動」「幼保小それぞれの教育課程の作成」の3点について紹介します。

※保育所(園)等とは、保育所・保育園・こども園・こども館のことです。

※教育課程とは、子どもたちが1年間に学ぶ内容を計画的に整理した学習計画のことです。



〈図① 幼児教育と学校教育の段差〉

教職員間の連携

国東市の公立・私立の幼稚園・保育所(園)等を小学校ブロックに分け連携を深めています。各ブロックでは、小学校を中心に保育士・教職員の連絡会をもっています。連絡会では、新入児の様子や子どもたちにつけた力、交流活動の計画や活動の反省などが話し合われます。

また、国東市内全ての幼保小が参加して、教育課程・保育計画作成についての研修や各ブロックでの実践交流等を行い、よりよい連携のあり方について研究を重ねています。

交流活動

小学校ブロックごとに幼保小で交流活動に取り組んでいます。幼保で行う交流活動と小学校で行う交流活動とがあります。

「芋植え・芋掘り・芋料理」「シャボン玉遊び交流会」「秋の宝物遊び」「合同運動会」「給食交流」等それぞれのブロックの特色を生かしたさまざまな活動が行われています。

これらの活動を通して、「園児と児童の交流が深まった」「園児がまねして遊んだり、下の子に教えたりする姿が見られるようになった」「小学校ではお世話される1年生が、教える立場の経験ができ成長が見られた」等の声が聞かれるよ

